

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成28年10月17日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	2号館
所在地	〒300-1214 茨城県牛久市女化町253-2		
自己評価作成日	平成28年5月5日	評価結果 市町村受理日	平成28年10月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年6月16日	評価機関 決 済 日	平成28年10月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員はご利用者の意欲や出来ることを見極め、食事づくりでは野菜の皮むきや切ること、ちぎること、盛り付けなど役割りを分担し全員が参加出来るようにしたり、野菜作り、裁縫、洗濯物たたみ、掃除、買い物など家庭の日常の活動をご利用者と一緒出来るよう働きかけ、支援しています。</p> <p>季節の行事や慣わし（初詣、節分、雛祭り、花見、夏祭り、十五夜、お彼岸、餅つきなど）、果物狩りなどを行ったり、季節の食材を取り入れた献立など季節感を取り入れた生活を心掛けています。</p> <p>地区のお祭りに出かけたり、地域の方との関わりを進めています。</p> <p>ご利用者の重度化に対応して、食事形態の工夫や、介護・看取りに対する体制作りなどをすすめています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るとともに、何でも話せる関係や風通しの良い、働きやすい職場の環境づくりに力を入れているおり、職員同士でも信頼関係を築いている。</p> <p>職員は家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添い、行動を制限することなくその人らしく今までの生活が継続できるよう支援している。</p> <p>敷地内に同一法人の特別養護老人ホームや通所介護事業所、居宅介護支援事業所があり、研修やボランティアの受け入れのほか、納涼祭を合同で行うなど、日頃から連携を図っている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の職員で考えた理念がある。玄関先に掲げ、職員、利用者、家族や来客にも目に付くようになっている。常にサービスの意義や役割を意識し実践に結び付けている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地区のお祭りや催し物の見学などに出かけている。日ごろは散歩や買い物などで地域の住民と挨拶を交わすなどしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生の受入れ、行事への招待などを通して認知症の方に対する理解を深めていただけるよう進めている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、行事や介護事故等の報告、それに対する意見や提案を頂いている。女化地区との交流もあり、お祭り等声をかけてもらっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問受入れ。日常の様子を見てもらっている。その後に助言等の手紙を頂いている。運営推進会議に出席頂き、現状を報告しているほか、入退所時の連絡、困難ケースの相談、規定にかかわる相談などしている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束廃止に関するポスターを掲げたり、契約時に説明したりして、ご家族にもその大切さの理解を深めていただけるようにしている。センサーマットなどを使用し拘束せずに安全を確保できるよう取り組んでいる。日中はベランダの鍵を開錠し、ご利用者の自由な出入りが出来るようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員室内に虐待に関するポスターを掲げ常に意識できるよう努めている。 自分がされて嫌なことはしないようにしている。一人の職員に任せず、皆でケアに取り組む、業務を見直すなどしてなるべくゆとりのある状態でできるよう努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度を利用しているご利用者がおり、支援員、後見人の関係がうまくいくように職員が調整や連絡を行っている。それらを通して、その目的や大切さを学んでいる。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をもって重要事項の説明やサービス内容の説明をし、同意を得た上で契約を行っている。特に医療や重度化した場合の対応などには慎重に説明している。また、いつでも閲覧できる場所に提示していると共に、変更があった際にはその都度、同意を得ている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月一回のたよりで近況を報告している。日頃から家族との関係を大切にしている。何かあればすぐに検討し対応するよう努めている。月1回介護相談員を受入れ、ご利用者やご家族が外部者にも意見を表せる機会を設けている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士良好な関係を保てるよう楽しい職場作りに心がけている。職員同士、意見を交換し易い環境作りに努めている。月一回のユニット会議のほか、普段の仕事の中でも色々な意見を聞くようにしている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度、サークル活動の支援、資格取得のための支援、育児中のシフトの調整など、職員の福利厚生を整えられるよう努めている。係りを決め、責任を持ってその仕事をしてもらう。任せながらフォローや仕事ぶりみている。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修、外部研修の情報を掲示し、参加の奨励を勧めている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や市内の事業所職員が集まる協議会などで情報の交換を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートなどを用いてご家族等から出来るだけその方の情報を得て、把握し、安心感を与えられるコミュニケーションに努めている。書面だけでは分からないことが多いので利用者の話に耳を傾け、よく観察し、色々な情報を職員で見つけ、小さな事を書き残して置けるよう記録を付けてまとめ活用している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望をきちんと検討対応している。分からない事や不安な事はないか尋ね、今後の良い関係が築けるよう努めている。「何でも話してください。」と伝え話しやすい雰囲気を作っている。	
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やケアマネからの事前の情報を頼りに準備をし、実生活をスタートさせ、気づいた事は「発見シート」に書きとめ今後の生活に役立てている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力を見極め、できることを手伝ってもらおう。また、職員が知らないような知識を尋ねご利用者から昔の知恵を引き出すような努力をしている。感謝の気持ちを必ず伝えるようにし、共に楽しみながら生活できるよう努めている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真つきのお便りを出し近況の報告をしている。また行事等の参加もお誘いし絆を深めている。面会に来られた時に職員が話をする事で心配していることや、悩みを聞きだせる関係にある。受診や一時帰宅など利用者が安定して生活できるよう家族に協力をいただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙による交流の支援や、馴染みの場所(自宅、お墓、商店など)への希望も可能な範囲で支援している。ご家族、兄弟、友人が来訪時には、居心地良く感じられるように、お茶を出したり環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、座席の調整や、作業の分担に配慮している。職員が間に入り、共同生活ができるよう関係を深められるよう支援していて、互いに協力し合っている場面が見られる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等に移り住むご利用者の状況、習慣、好みやこれまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、必要や求めに応じて、相談や支援をするようにしている。移り住み、亡くなった後にもご家族から連絡や面会があるなどしている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話の中から思いを引き出し、暮らし方の意向や希望を汲み取り、把握できるよう努めている。複数の職員の情報を組み合わせることで、思いが分かることがある。家族からも意向を伺い本人本位のケアが出来るよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時情報やご家族に書いていただくセンター方式シートからの情報と、何より普段の会話の中から色々な事（昔の生活環境やご家族のことなど）を聞き把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人1日1枚のケース記録様式を使い、その日の活動や会話、健康状態や精神の状態を記録している。職員間でそれらの情報を共有できるようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間の様子を記録できる様式を用い介護計画に対する結果を記録できるようにしている。全職員で定期的に行われるケース検討の他、日々変わる状況に合わせて複数人で対応を検討し、現状に即したケアが出来るように努めている。連絡帳を活用し全職員が同じケアを提供できるよう努めている。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の活動の状況や健康の状態がすぐに分かるような記録様式を用いている。全職員が状況を把握し易いようにしている。業務に入る前に目を通しスムーズなケアに当たれるようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のそのときの都合により、受診の送迎、付き添いの支援、利用者希望の買い物など出来る限りのことは臨機応変に対応している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の老人会や外出の際のボランティア、神社の境内を借りてのお花見会、障害者施設のパンの訪問販売、など地域の方の力をお借りしながら、楽しみがある生活を送れるよう支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族による受診の援助が困難な場合には、同意を得た上で当方の協力医療機関に主治医の変更をしていただいている。その都度、必要な情報を伝え、主治医と連携して適切な医療を受けられるよう努めている。重度化で通院が困難になった場合は往診専門医につなげるなど適切な医療を受けられるように支援している。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と連携をとり毎週1回訪問時の健康チェック時の他、24時間相談できるようになっていて、ご利用者、職員の不安を取り除いてくれている。皮膚トラブルや緊急時などには併設施設の看護師にも相談できる。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、身体状況や精神状況も含め近況の状況を詳細に伝え、退院時には通院の要否、療養上の注意点などの情報を受け、受け入れ態勢を整え退院後の生活がスムーズにいくように支援している。 入院中も面会や電話などで情報の交換を行っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には「重度化した場合における対応に係る指針」「看取り介護に関する指針」を基に提供可能なサービスや施設の方針等を説明している。主治医や訪問看護師の協力を得て、施設での看取りの方針やできることなどを家族に説明し、意向を伺いながら進めている。日々変化する状態を伝え支援している。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の観察のポイントや対応方法、心配蘇生法、AEDの使用方法など研修の研修を定期的に行い、また、対応マニュアルを職員の見やすい場所に貼って、適切に対応できるよう努めている。日々の利用者の様子を観察していく事で、少しの変化に気づけている。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報装置やスプリンクラーなどインフラを整備している。 年2回消防署職員の立会いの下、昼夜想定での避難訓練を実施し、通報や避難の方法、併設施設職員との連携などを確認している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁や食べこぼし等、他利用者に気付かれないよう対応したり、居室へ入る際は、声をかけてから入るなど、プライバシーを損ねないよう配慮している。一人一人の人格を尊重し、その人その人の性格や郷土にあった声かけの工夫をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか」「～していただけませんか」など自己決定を促すよう言葉かけに配慮している。今何がしたいか、何を食べたいかなど伺っている。思うように言葉が出ない方もゆっくりと最後まで待つて聞いている。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	クラブ活動やお手伝い等参加したくない方に無理強いしない。一人の時間を好む方もいるのでその人に合った時間の使い方を考慮している。散歩や買い物の希望など可能な限り意向に沿って行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の支援や外出する時はいつもよりおしゃれな服を選んでいる。男性利用者は髭剃りを行っている。化粧品など決まったブランドがある人はそれを購入するようにしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を出る範囲で食事作りの手伝いをご利用者にさせていただき、「さっき、○○さんに切ってもらったものだよ」と皆で完成させたものを頂くようにしている。季節感を取り入れ食事全体を楽しめるようにしている。時にはお弁当やお寿司を取ったり、外食したりしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人のいつもの摂取量を把握し、一人一人に合った食事量を提供し、変化がないか注意してみており、食事が取れないときにはお粥にしたり高カロリーゼリーの提供などを行っている。嚥下や咀嚼機能に合わせて、ミキサー食や刻み食、ペースト食等その人に合った形態を提供している。野菜を多めにしている。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで促し、歯磨きの介助や入れ歯の手入れ、イソジンでのうがいなど1人1人の出来ること、出来無いことを把握し、状態に応じて職員が支援している。口腔ティッシュやスポンジを活用している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンや失禁の状況を把握し、それに合わせて、なるべくトイレで排泄できるよう、自立を保てるよう、声掛けや、トイレ誘導、オムツ類の調整を行っている。日中は普通のパンツ、夜間は紙おむつ使用など。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では、野菜類やきのこ類、ヨーグルトなどをメニューに取り入れている。下剤やセンナ茶を服用しているご利用者には、排便の状況によって下剤の調整を行っている。自然排便が出来るよう支援している。ラジオ体操など運動も取り入れている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お誘いする時間や順番などに配慮し、湯に浸かる時間や湯温を一人一人に合わせ、ゆったりと入浴を楽しめるよう配慮している。ゆず湯や菖蒲湯など昔ながらの季節感を感じられる入浴も取り入れている。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときは休めるよう配慮している。但し、昼夜逆転してしまう方には、手伝いや話しかけ、散歩など日中寝ないような工夫をしている。馴染みの寝具を使用。明かりや布団の厚さの調整をして気持ちよく眠れるよう支援している。眠剤の調整を主治医と連携して行っている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容をすぐに確認できるようにケースファイルに薬局からの服薬の説明書を綴っている。作用・副作用を理解している。変更があった場合には連絡帳に記入し、体調や精神の変化に注意観察している。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の今までの生活の中で料理が得意な方には包丁を使い食事の支度をお手伝いしてもらったり、農業に詳しい方には季節により畑に種を植えたり花を植えたりしてもらい、裁縫が得意な方には布巾やランチョンマットなどを縫っていただいたりしている。若い職員は利用者からいろいろ教えてもらったりしている。やって頂いたことは「ありがとう」の感謝の言葉を伝えている。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訴えがあった時、すぐに行ける時にはすぐに対応しているが、無理な時には後日、日にちを決めて提案している。なるべく希望に添えるよう努力している。フルーツ狩りやお花見などの行事も恒例で行っている。一時家宅の希望には家族と調整している。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理しているご利用者もいる。自己管理が難しいご利用者は施設で管理し、レジで支払う時に財布を渡し、ご自分で支払いをしていただくなど支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話の取次ぎをしている。年賀状や手紙などのときは、文面を一緒に考えたり、宛名書きを代行したりなど支援している。但し、家族が連絡を取って欲しくないところもあつたりするので、両方の気持ちに配慮して行っている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節にあった壁画や花を飾り、季節感を感じていただけるよう配慮している。日常や行事の時の写真を掲示している。トイレが汚れていたらすぐに掃除をして気持ちよく使えるよう努めている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファや離れにイスを配置して、テレビを一人で見たり、気の合う者同士トランプや談話ができるようにしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた箆笥や机、布団、テレビ、仏壇、写真などを配置し、できるだけ居心地よく過ごせるよう配慮している。一人一人違った雰囲気のある居室となっている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室入り口の暖簾で自分の部屋をわかりやすく。車椅子やシルバーカーでも通れるようスペースを確保したり、適所に手すりを配置している。入浴もバスボードやキャスター付きのシャワーチェア等を使い安全に入れるようにしてある。居室内でも家具の配置などで安全に動けるような工夫をしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている ○ 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない